



# 道心

# 慈悲 あわれみ いつくしむ 心を育む

山主 横山 正賢

近年の、後を絶たない青少年少女の残酷な犯罪行為や若い親の乳幼児虐待などの事件には胸が痛む。

何故だろう

どんな環境に育ったんだろうか

両親はその子に

如何に向き合っていたのかな

お爺ちゃんお婆ちゃんには

罪を犯した青少年少女と如何に関わっていたのかな

家庭に宗教はあったのかな

報道によると普通の子だったと

それなのに

何故・何故・何故・何故だろう……

と人ごととは思わず、自分に問いかける。果たして私の日常に関わりのある社会で問題は無かろうかと考えさせられる。

少なくとも私が住職をして四十三年の間、乳幼児期から、お爺ちゃん・お婆ちゃん、お父さん・お母さんと一緒にお仏壇に手を合わせている青少年少女からは想

像も出来ないことである。

がしかし数年前から気になることがある。冠婚葬祭に宗教的儀式を避ける嫌いながある。そのもとには宗教家の側に問題があることも大いに反省しなければならぬ。

法事の席に子や孫の参加が少なくなりつつあることだ。

仏教は慈悲の教えだと言われる。自然の恵みや人々との出会い、事事物物との

出会いの中に、生かされて生きる生き方が慈悲の教えである。

御仏の衆生をあわれみ、いつくしみの御心に抱かれて生かされている、己れに

気づくことなく過ごす人が多くなりつつあるように思う。

法事や通夜の席に青少年を見つけると、この時とばかり「仏の慈悲に抱かれて生かされている、あなたの魂に目覚めて！」との問いかけに真剣な眼差しで「なに・なに・なに？」疑問符の眼差しが返ってくる。「あなたの命は地球上の最初の生命が生まれて以来一度も絶えたことのない命が、今あなたとして生かされているの

よ！」「エッそうなの！」「だから今日九十年の生涯を閉じたお爺さんは……」「今年三十三回忌を迎えたあなたが生まれる前に逝ったお婆ちゃんは……」「貧しく困難な時代をあなたや子孫の命がこの世に生かされて自分らが適えられなかった事を実現してくれることを信じて生き抜いて来られたのだよ！」「アッそうだったのか！」とうなずく少年達の輝く眼差しに、少しでも多く出会えることを願っている。

金子みすずの詩集より

星とたんぼ

青いお空のそこふかく、

海のこいしのそのように、

夜がくるまでしずんで、

昼のお星はめにみえぬ。

見えぬけれどもあるんだよ。

見えぬものもあるんだよ。

ちつてすがれたたんぼほの、

かわらのすきに、だアまって、

春のくるまでかくれて、

つよいその根はめにみえぬ。

見えぬけれどもあるんだよ。

見えぬものもあるんだよ。

第二次世界大戦後核家族化が進む過程

で、互いに敬う、気遣う思いやり、お陰

様でと言った日本人の美意識が損なわれ

て来たように思う。

現代の殺伐とした社会はこの詩が訴え

ている、見えない物を大事にする心を忘

れてきたことに原因があるのではなから

うか。

夏の章 第9話



# 幽霊には足がない。 その理由を知っていますか。

愛知専門尼僧堂堂頭 青山 俊董

久々に小学校のクラス会に出席しました。もう卒業から50年—その間にはどなたの人生にも山あり谷あり、喜びの日も悲しみの日もあったはずです。夢心地の恋愛、もう死にたいほどの失恋。あるいは大切な人、家族との死別。嫁、姑のいさかい、職場の悩み……さまざまな明暗があつたことでしょう。そして、それをどう越えてきたか。

クラス会というのは、これまでのそれぞれの生き方を、明暗を、心身に刻みつけての集まりでもありません。わずかに残る遠き日の面影を懐かしみながら、会わなかつた歲月のことなど、時を忘れて語り合ううちに、私は陶芸家の河井寛次郎先生の言葉を思い出していました。

過去が 咲いている今  
未来の蕾で 一杯な今

生まれつきいただいた美しさと、醜さというものは、自慢することでもなければ、また恥ずべきことでもありません。問題はこの素材を30歳なら30年の歲月をかけ、50歳なら50年の歲月をかけ、70歳なら70年の歲月をかけて、どう刻んできたかです。この年月、何を思い、何を語り、どう行為してきたか。心に思っただけで言葉に出さず、具体的行為にも表れなくても、心に思っただけという事実は事実として、一刀のノミとなって私を刻んでゆきます。

まして言葉に出し、行為として実践に移せば、たとえそれが周囲の目や耳にふれなくても、行為したという事実は、私の人格を刻みあげてゆきます。

30歳の人は30年の歲月の生き方の総決算の姿が

いまの姿であり、70歳の人は70年の歲月をどう生きたかの総決算の姿が、いまこの私なのです。

過去が咲いている今、  
未来の蕾で一杯な私

見る人が見れば、あなたの姿を生み出したそれまでの歲月のありようは、手の内を見るように読み取れ、また明日の展望さえできてしまいます。刻々に種蒔きをし、刈り取りの仕方がまた次の種蒔きとなります。

原因・結果の遅速こそあれ、因果歴然の法則はごまかしようのない天地の法則なのです。早合点してはいけません。因果論は動かしたいとあきらめる宿命論とは違います。”因“に何の”縁“を加えるかで”果“はいかようにも変わってゆきます。

私のお茶の弟子たちの中から草木染めを楽しむグループが誕生しました。私の法衣やお袈裟も染めてくれております。夏の黄衣はすすきで、冬の黄衣は宵待草で染めてくれました。緑がほのかに匂う黄でとても美しい。その法衣の袖に使う紫と赤は同じ蘇芳を材料にして、媒染だけを変えるところによって発色したものと説明してくれました。蘇芳という同じ材料を使い、同じ絹を染めても、灰で媒染すると蘇芳自身が本来持っている赤系の色が出、鉄さびで媒染すると濃い紫に変わるのだというのです。さらに液に漬けたものを乾燥させる—空気媒染させることによりまた色は変わり、その空気媒染も年月をかけることで色がさらに深まってゆくというのです。

材料は同じでも、縁となる媒染によって結果を

どんどん変えてゆくことができる。まことに「縁は異なるもの味なもの」であり、「縁を大切に」した古人の心がうなずけることです。草木染めの説明を聞きながら「人生も同じだな」と思いました。同じ一つの苦悩という材料も、マイナスの縁によつて媒染するか、プラスの縁によつて媒染するか、それも夕立が通り過ぎるようなアツという間の媒染で終るか、長い時間をかけて、いつしらすという形で染み通つてゆくかで、結果は大きく違つてきます。

人生のよき師、よき友、よき教えという最高の媒染によつて、苦悩という、泥という私の素材を、輝かしいものに変えてゆかねばならないと思つたことです。

### すんだことを追わない、明日を思い煩わない。

過去の総決算の今、未来の出発点の今という、過去・現在・未来の三世を展望したうえで、ではそのいまをどう生きたらよいのでしょうか。お釈迦さま様にお質ねしてみましよう。

過ぎ去れるを追うことなかれ  
 いまだ来らざるを思うことなかれ  
 過去、そはすでに捨てられたり  
 未来、そはいまだ到らざるなり  
 ただ今日まさに作すべきことを熱心になせ  
 たれか明日死のあることを知らんや

(中部教典)

過去を心のお荷物として背負い込まず、未来を

抱き込まず、前後裁断して今日只今に立ち向かえ。その今日只今が我が心にかなうことであるうとなかるうとにかかわらず、姿勢を正し、腰を入れて、前向きに取り組んでゆけと教えられます。

日本では毎年夏になると、テレビ・映画に幽霊やホラーものが目立ちます。遊園地のお化け屋敷も急に込み合うのだそうです。お盆だから、先祖さまが霊になって里帰りなさるといふ思いもあるのでしょう。この日本の伝統的な幽霊の姿をよく見ますと、3つの特徴があるのはご存知ですね。

1つ目はおどろ髪を後ろへ長くひいていること。  
 2つ目は両手を前へチョコンと出していること。  
 3つ目は足がないということです。

そして、それぞれに意味があります。おどろおどろした髪を後ろへ長くひいているのは、済んでしまつてどうにもならないことを執念のように、怨念のように、いつまでもああすればよかった、こうすればよかった、ああするんじゃなかった、こうするんじゃなかったと心が過去にばかりとらわれている姿を象徴しています。

反対に、来るか来ないか分からない明日のこと、来年のこと、未来のこと、ああなつては困る、こうなつては困ると取りこし苦労をしている心の状態を両手を前へチョコンと出している姿で表しています。そして足がないというのは、現にいま、ここに両足を大地に踏ん張つて立っていないながらも、心が過去へ未来へと飛んでしまい、限りなく、いまごとという時“を取り逃がし続けている姿を足がないという形で表現しているのです。

「幽霊に足なし」とか「来年のことを言うと鬼が笑う」などの言葉をもつて、先人たちが教えてくれる生き方は過去を背負い込まず、未来を抱き

込んで前のめりにならず、前後を裁断して今日只今に全力投球して立ち向かつてゆけーという教えなのです。

反省するということ、心のお荷物として背負い込むというのは違います。未来への見通しを立てるといふのと、取りこし苦労をするといふのは違います。失敗が人間を駄目にするのではなく、失敗にこだわる心が人間を駄目にするのであり、失敗を踏み台として前向きに取り組むところのみ、過去を生かし、未来を開く鍵もあるといふものでしょう。見つめるべきものは、どこまでも今日只今なのです。私の好きな句に、

投げられた  
 ところで起きる  
 小法師かな

というのがあります。起き上がり小法師とは、達磨さんのことです。中国に禅を伝えた達磨大師の坐禅の姿をかたどつたものです。起き上がり小法師はどこへ放り出されても、文句なしにそこでコロリと起き上がりま

す。ちようどそのように、私たちの人生の処し方も、いついかなる状態の中に投げ出されても、そこを正念場とし、逃げず追わず、ぐずらず、腰を据えて取り組んでゆきたいものです……。

※(本文は、青山俊重尼老師著

「悲しみはあした花咲く」光文社より抜粋したものです。)



# 泰山木と私達

三田村 英雄



りのキャンプを実行して往年を語り、現況を話し励まし合っているわけです。

それは或る夏の出来事でした。美しい娘さん五・六人が課長さんらしき一人の男性に伴われ、我々のすぐ隣にテントを張られました。皆さん達とても楽しそう、喜々として食事の準備をしたりして居られました。やがて夕日が沈みキャンプファイヤーが赫々と燃えて夜空に一番星が輝く頃、我々酒も廻って出来上がり、大声で合唱し、インディアン風ダンスを奇声を発して踊り、大いに盛り上がりました。

全員幼少の時から「元気で世の中を生き抜け」を合言葉として生活していますのでお互い名前を呼び捨てですし、話はどうなり合いの様に聞こえますし、娘さん達には喧嘩でもしている様に受け取られたのでしょうか。ご一同完全に恐れをなして、夕食もそこそここの暑いのにテントの入口にシートまで降ろしてピタリと閉め切り、引込んでしまいました。

翌早朝潮騒に目覚め、冷たい波打ち際に素足で立ち、胸一杯潮風を吸っていますと、かのリーダーの男性がこわごわ私に近づかれてお尋ねになりました。

「アノー、皆様がお宅様を先生、先生と呼んでいらつしやる様子ですが、どうした団体の皆様の先生でいらつしやいますか」「実はこうこうしか

じかです」と言うに当る朝日の為だけではなく、パツと顔中を明るくされ、テントに駆寄り早速娘さん達をテントから出されました。

私もその時になつて「こりゃー気の毒なことをしたわい」と娘さん達にお詫びして、その後の一刻を我々の仲間と明るく楽しく過ごさせて頂いた次第でした。

この施設は、現在立派なものに建て替わっていますが、建替えに際し、原爆投下五十年目に両親の五十回忌をしよう。その時泰山木の花を白蓮の花にみたて仏前に捧げて冥福を祈ろうではないかと計画し、切り倒される前に泰山木の枝を切り取り畑に植え、立派な苗木にして五十回忌となる八月六日に皆に配りました。

私の家には七、八名が集まって来て植えてくれましたが、ここ二、三年来白い大きな花を咲かせています。

参禅の時、山門への途中に禅昌寺碑があり、そばに大きな泰山木が白く淨らかな大輪を沢山つけます。それを見る度に施設での過日をしのぶと共に、禅昌寺本堂の仏様に彼等が年若い今後日々を感謝と合掌で過こさせてやって下さいと手を合わせている次第です。

泰山木 樹頭の花を 陽に捧ぐ

地球は大きな 仏国土

運命同じき同胞と、

集い寄る身を守らせて  
御教え受くる良き子等の

御親と仰ぐ、慈悲の家  
ああ戦災児育成所

と或る夏の日、宮島のキャンプ地で初老男性の一人がドラ声で合唱するのを海水浴に来ていた人々は客観的に眺めて「なんじゃこりゃー」とさぞ驚かれたことでしょう。この十名程のオジサン連の中に「先生」と呼ばれる一人の老人が居ました。これが禅昌寺さんで毎週水曜日の夜参禅させて頂き早十年になる私です。

実はこの一行は原爆で両親や肉親を失った、もと佐伯郡五日市町皆賀

(現広島市佐伯区)にあった広島市戦災児育成所の出身者連中がキャンプをしている姿です。

思い起こせば施設では毎朝本堂にお参りしお経を拝読して仏教を生活基盤としていました。その戦災児育成所では毎夏宮島裏の腰細海岸(天砂利浦)で健康増進と情操教育の為、キャンプを行っていました。彼らは皆、大変な苦勞を乗り越えて現在何とか一人前の社会人に成りましたが、これも国内・国外を問わず多くの人々の温かく深い愛情とご支援があったからだと思身深く感謝しているところです。でも何とか一人前になつても、今まで助け合い協力し合つて生きて来た彼らにとつて少年時代のキャンプの思い出はとうてい忘れ難く、こうして二泊三日ばか

# 「やっ行って行けるの?」

山口県田布施町

大泉寺住職 横山宗賢

先日、東京で僧侶の研修があり

久々に友人と再会し、昔話に花が咲き大いに盛り上がった時のこと、友人から「宗賢さん、住職就任おめでとう! よかったね。」とお祝いの言葉を頂き、それと同時に「ところで、そのお寺檀家は何軒あるの?」と言う質問。私は素直に「ありがと。うむ、檀家さんと信者さん合わせて六十軒だね!」と応えると、「え〜っ! 六十軒しかないの? それでやって行けるの?」と返って来ました。

友人の言う「やっ行って行けるの?」とは、檀信徒数、六十軒で、お寺の収入だけで(副業しないで)生活できるのか? 寺の伽藍が維持できるか? という意味です。

私が山口県内のお寺さんの紹介で、初めて大泉寺の総代さんたちとお会いした時のことです。総代さんは「こんな田舎の小さなお寺に住職として、しかも若くてご夫婦で入ってもらえるとは、夢のようです。しかし大泉寺は檀家六十軒しかないのです。方丈さんを十分に養って行けません。私に伝があるの他の仕事と掛け持ちされてはいかがですか?」と有難いことに総代さんたちは、住職の生活のことまで心配して下さいました。しかし私は「心配有り難うございます。私にとつて檀家は六十軒しかないのではなく、六十軒あ

ります。まあ、他のお寺さんの協力を得ながら私はお坊さん一本でやって行こうと思っています。」

と総代さんの申し出をお断りしました。総代さんは「わかりました。方丈さんには十分なことは出来ませんが、米と野菜だけは不自由させんから!」と力強いことを言ってくれました。本当に有難い限りです。

大泉寺を紹介して頂いた時、もし私が「檀家六十軒しかない。の」しかないに捉われていたなら、おそらく「檀家六十軒しかない、生活出来るかな? どうなるのかな?」などと考えて自分で自分を追い込んでしまい、一歩も前に進めなかったことでしょう。今こうして前向きに考え、有難くご縁を頂戴出来るのも、私がこの七年間禅昌寺の補佐をして来て、様々な「出会い・ご縁」を頂き、学ばせて頂いたお陰だと感謝しております。

諸先輩方がよくこんなことを言っておられました。「檀家が多いとか少ないとかは問題じゃない。ただ、お釈迦さまの御教えをどう自分が行じて行くかが大切だ。コツコツ行じて行くと思議なもので、道は開けて来るよ。」と。今思いますが、この七年間は諸先輩方の言うことそのものを学ばせて頂いたように思います。

「やっ行って行ける・行けない」かは、正直実際にやってみないと分かりません。ただ私がやるべきことは、仏法

を信じ自らがコツコツと行じて行くこと。そして「出会い・ご縁」を大切にすること。そうすれば、道が開けて来ると信じております。 合掌

追伸 禅昌寺檀信徒の皆様始め、ご縁を頂いた皆様方には、大泉寺住職就任に際し、過分なお祝いを賜り、誠に

ありがとうございました。心より感謝申し上げます。田布施町近郊に來られた折には是非、お立ち寄りいただければ幸いです。存じます。

山口県熊毛郡田布施町

大字別府五七九番地 大泉寺

電話0820-55-7650

## お手つだい

サンフランシスコ日本語補習校

三年生の作文より

ぼくの日本の家は、広しまのお寺です。夏休みになると毎年家族で広しまに帰ります。お寺はいつもいそがしいので、ぼくはお手つだいをたくさんします。

うらげんかんから、たつきゅうびんの人が来たら、はんをおします。名前がひつくりかえらないように気をつけます。

ほうじの時、おはあちゃんに人数を聞いて、いすをきれいにしなべます。

おほんの近くになると、お寺の下のお店をあけておせんこうや花、とうばを売ります。ぼくは売店でおしごとをする人、おべんとうやおやつをはいたつします。ぼくたちにも、おしいちゃんがおべんとうをちゅうもんしてくれます。日本のおべんとうは、おかすがきれいなならんでるし、何でもおいしいです。ほんとうでも花とかを売るのでプザーが鳴ったら、みどりのボタンをおして「はい、ちよつとおまちください」と言つて走つて本どうまで行きます。おねえちゃんと

ゆんばんにいきます。とうばは八百円で花は三百円です。一番むつかしいのはおつりをけい算することです。

おばあちゃんが、「ちゃんとせいざをして、ごあいさつをしなさい」と言いました。さいしよははずかしかったけど、「おはようございます」「二百円のおつりです」とせいざを言えるようになりました。ときどきおまわりに来る人が、「ぼく何年生」「お手つだいが上手に出来るんじゃねえ、えらいね」と言ってくれます。そしたらいい気持ちになつてうれしいです。

お寺の本どうは広いので、いろんなことをしてあそびます。ぼくは本どうで、たいこをたたくのが好きです。ものすごく強くとたくと、戸が「カタカタ」とゆれます。リモコンの車を走らせるのもおもしろいです。それからときどき、いとこたちと、きもためしをします。ぼくのおしいちゃんは、いつもおばけの役をやるのが好きです。

お手つだいの、おあそびも同じくらいおもしろいから、日本に帰るのがいつもまち遠しいです。

今年の夏休みは、今よりもっと出来ることがいっぱいになつたらうれしいです。



# ◆道心・趣味の会◆

## 短歌

●今の世に朝にゆうななにみ仏の  
法唱えつづくらすこの身うれしき

安佐南区 九十七翁 夢楽

●みちのくを幾曲がり来し水脈は  
阿武隈川を長閑に流るる

●胸中に螢を一つともらせて  
逢えざる夫と語るまぼろし

東区 矢野淑子

## 俳句

●沙羅の花 真白きままに 散り敷ける

●木魚と 尺八和して 寺涼し

東区 青笹 俊枝

●蟹のごと 仏仏言つて おる漢

●紫陽花の 多は即一と 咲きにけり

●一僧の 涼しき風を 起こし去る

廿日市市 伊藤 順二郎

## ◆行事報告◆(四月～六月)

●四月三十日(金) 庄原国営備北公園  
一日旅行はゴールデンウィーク中  
のせいか参加者が十六名と少なく  
不手際を反省。でも花いっぱい  
の中に一日長閑な時を過ごさせて頂  
きました。

●五月二十二日(土)～二十三日(日)  
四国八十八ヶ所二十四番～三十六  
番巡拝。三十四名の参加。順調に  
予定より一番多く参拝できて幸い  
でした。

## ◆行事案内◆(七月～十月)

### ■毎週定例行事

●暁天坐禅会

月曜日～金曜日

毎朝五時十分より五十分まで

●水曜坐禅会

午後七時より坐禅・茶話会 終了  
八時半

●婦人坐禅会

毎週金曜日午後一時より坐禅・茶  
話会 終了三時(第一金曜日のみ  
坐禅の後、写経、茶話会)

※八月の坐禅会はお休みです。

### ■毎月定例行事

●上田宗箇流茶道稽古日

毎月一回 第二又は第四金曜日を  
予定 午後二時から

※お抹茶と和菓子を気軽に楽しむつ  
もりでご参加ください。

●御詠歌の会

第二金曜日午前十時より自主練習  
第四金曜日午前九時より講師を招  
いて練習 昼まで

◎茶道の稽古及び御詠歌の稽古は講  
師の都合により変更する場合もあ  
ります。

初めて参加される方は、お寺に電  
話にてご確認ください。

●日曜坐禅会(八月はお休みです)  
第一日曜日 午前九時より坐禅・  
茶話会 終了十時半

### ■恒例行事

●お盆前諸堂掃除

七月三十一日(土) 午前九時半

集合 十時より開始(約二時間)

お子さん、お孫さんご一緒にご奉  
仕ください。昼食に「そーめん」  
を用意しております。

●日帰り旅行

行き先 山口県田布施町大泉寺訪

問 日帰りの旅(十月中に予定し  
ております。)

### 「勝友会」

## ゴルフコンペへのお誘い

禅昌寺護持会理事 中山 俊郎

禅昌寺檀信徒中心に定年退職者のゴルフ  
愛好家によるコンペ「勝友会」があります。  
長年のお仕事も終わり、健康と体調維持  
のためゴルフコンペ勝友会に参加されませ  
んか。勝友会は真夏と真冬を除き、年七回  
行われています。

昭和の終わり頃から始められたようで今  
年の六月で百二十六回を数えています。七  
月・八月は休みになります。九月から勝友  
会コンペが始まります。

最近の会場は宮島志和カンツリー倶楽部  
が利用され、参加人員も二十名前後です。  
六十才台から九十才に近い八十才台の元氣  
な方も参加されており、毎回楽しい一日を  
過ごしています。

是非ご参加下さい。詳細は禅昌寺へお問  
合せ下さい。

## 四国八十八ヶ所 ご巡拝の旅(一泊二日)



●日時 十月三十日(土)～十月三十一日(日)

●行き先 四国八十八ヶ所・三十七番  
岩本寺より四十三番明石寺

●集合場所時間 三十日午前六時五十  
分集合 七時・広島駅新幹線口を出発  
帰着は翌日午後八時半広島駅新幹線口  
を予定。

●参加費 一人二万五千五百円(納  
経帳・軸・白衣は別途必要)

※旅行の参加申込み・お問い合わせは  
お寺までお知らせ下さい(詳しいご  
案内をお送りします。)

申込み期限 九月末日

電話 〇八二二九一〇六一八

### 原稿募集

皆様の随筆、旅行記、体験談、趣  
味の短歌俳句など何でも結構です。  
お寄せ下さい。次号原稿締切は、  
九月末日までお願いします。